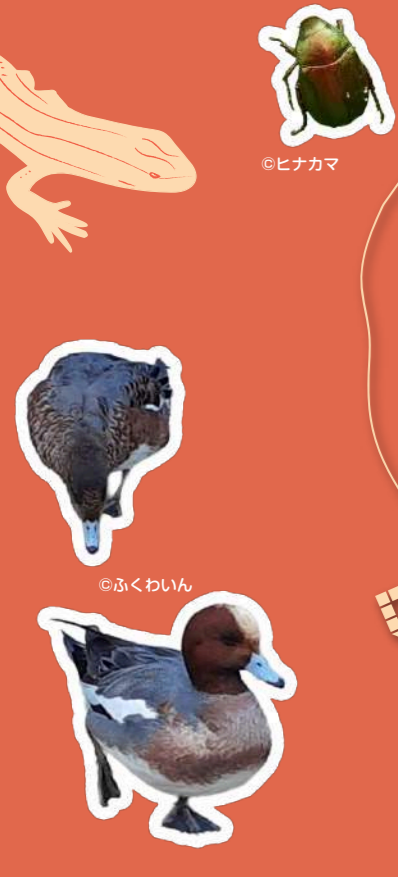


スマホでさがす おかやまいきもの調査隊



地域の皆さまとともに、岡山県内に生息する多様な生きものを見る化し、得られたデータを蓄積して保全施策に活用するとともに、見慣れた景色の中で生きものを発見する体験を通じて、子どもたちがふるさとを大切にする心を育み、地域を誇りに思うきっかけをつくりたい。そんな思いから、「おかやまいきもの調査隊」は始動しました。このレポートでは、2025年度に実施したいきもの調査の結果を報告します。

調査の結果

調査期間：2025年10月17日(金)～2026年1月7日(水)

| | | |
|---------|----------|--------|
| 発見した数 | 発見した種類 | 参加した人数 |
| 5,003 件 | 1,411 種類 | 356 人 |

投稿が多かったいきもの

- ウスタビガ (繭(まゆ))
- ジョロウグモ
- アオサギ

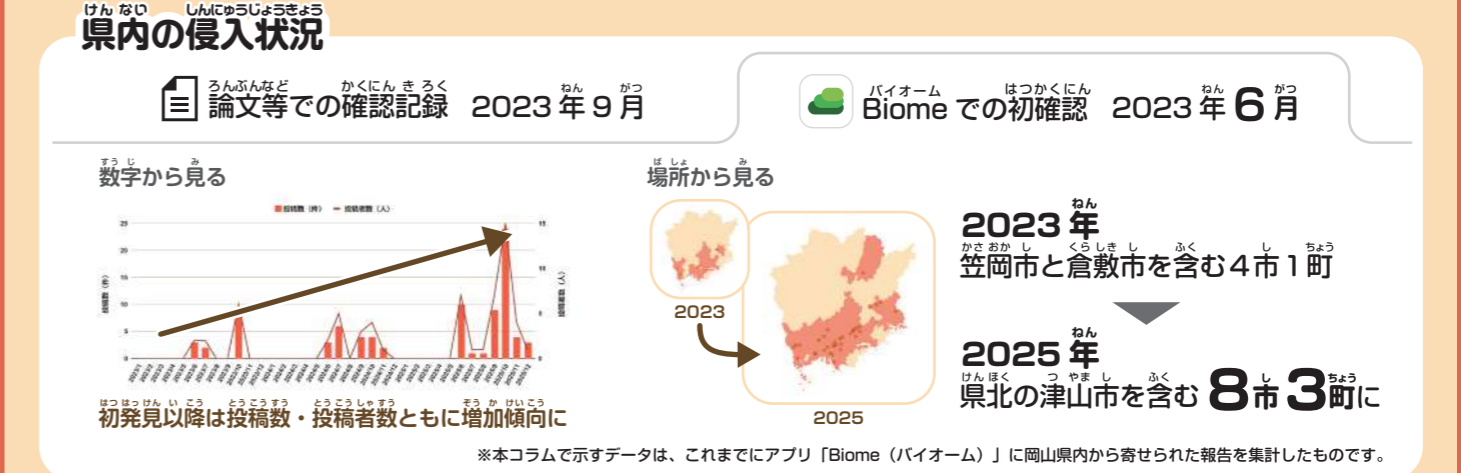
どこまで広がる？ おかやまの外来いきもの最前線

生態系だけでなく、私たちの暮らしや産業にも悪影響を及ぼす外来種が各地で確認されています。その多くが、私たち人間の活動によって持ち込まれた背景があることも忘れてはいけません。

| | | |
|---|--|--|
| <h3>特定外来生物</h3> <p>ヌートリア</p> <p>農作物、希少な水草や二枚貝の捕食が問題となっています。</p> <p>どうして日本に？ 毛皮にするため</p> | <h3>特定外来生物</h3> <p>セアカゴケグモ</p> <p>毒を持ち、人間への直接的な被害も心配されています。</p> <p>どうして日本に？ 資材への付着など</p> | <h3>重点対策外来種</h3> <p>セイタカアワダチソウ</p> <p>他の植物の発芽や成長を阻害する物質を出します。</p> <p>どうして日本に？ 観賞用として</p> |
|---|--|--|

注目！チュウゴクアミガサハゴロモ

近年、中国原産で、セミやカメムシの仲間の「チュウゴクアミガサハゴロモ」が岡山県内でも頻りに確認されるようになりました。生態系への被害は明らかになっていませんが、果樹や街路樹への被害が報告されています。体長 1.5cm ほどで、翅の白斑が三角形をしているのが特徴です。綿を背負ったように見える幼虫は、背中に黒い斑点があるのが特徴です。



よく似た在来種 アミガサハゴロモ

在来のアミガサハゴロモは、全身がオリーブ色であることが多く、翅の白斑は四角形です。

知ることから、始まる。つなぐ、おかやまの自然。

おかやまいきもの調査隊の活動は今後も継続し、岡山の自然を改めて見つめ直す文化として地域に根づかせることを目指しています。旬の食材を味わう地産地消、保全活動への参加、博物館での学びといった皆さまの一つひとつの行動も、自然と向き合う大切な第一歩です。日々の小さな発見をデータとして積み重ねながら、岡山の豊かな生態系を、みんなの力で次世代へつないでいきましょう。

おかやまいきものエリアマップ

人々の暮らしが、本来の自然を改変しましたが、同時に雑木林、草原、水田、水路、ため池といった岡山県独自の生態系や景観を形づくり維持してきました。しかし近年は、高齢化・生活様式の変化・過疎化による人間の関わり方の変化によって消失の危機に瀕しています。

中国山地エリア

後山や上蒜山から成る標高 1000 ~ 1300m ほどの山岳帯です。蒜山地域では、建築資材・肥料・飼料調達のための山焼きや草刈りで維持されてきた草原環境を残す自然再生の取り組みが行われています。



アカマダラカゲロウ



ミゾソバ



ヤマトフキバッタ

吉備高原エリア

標高 200 ~ 600m ほどの丘陵地帯で、落葉樹から常緑樹まで多様な植生が成立しています。石灰岩が分布する地域もあり、渓谷や鍾乳洞が発達すると同時に、特有の動植物を見ることができます。



ニホンイノシシ



キタテハ



ツリガネニンジン

岡山平野エリア

三大河川と、干拓により整備された水路や水田が広がっています。山沿いには、数千を超えるため池が築造されるなど、豊かな水辺環境に育まれた人々の暮らしと動植物を見ることができます。



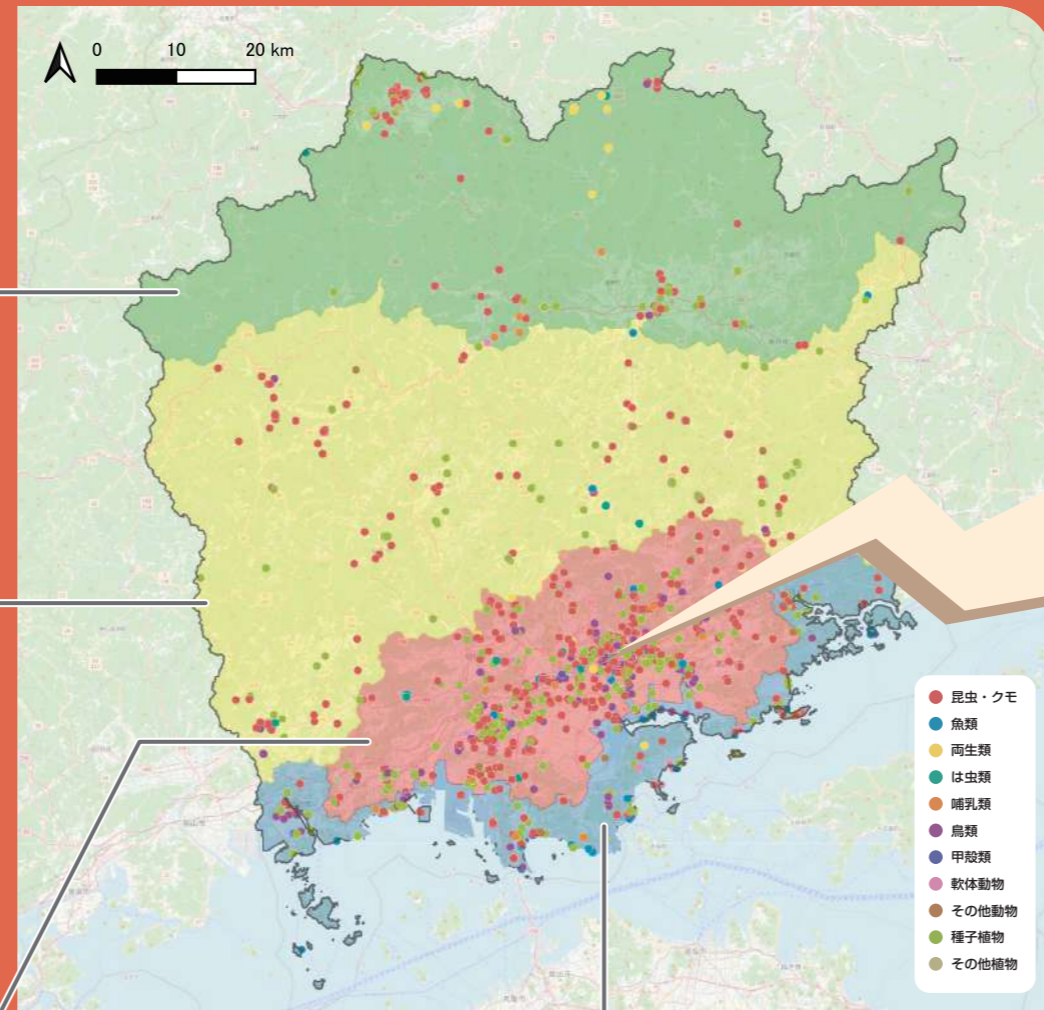
カワヒガイ



カイツブリ



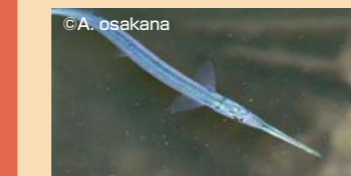
ツマグロヒョウモン



- 昆虫・クモ
- 魚類
- 両生類
- は虫類
- 哺乳類
- 鳥類
- 甲殻類
- 軟体動物
- その他動物
- 種子植物
- その他植物

瀬戸内海エリア

穏やかな海と連なる島々で知られる一方、本土部は干拓によって、海岸の多くが人工護岸となっているのが特徴です。近年は、地域一体でアマモ場や干潟の再生に向けた取り組みが行われています。



クルマサヨリ



タカブシギ

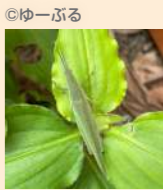


イボニシ

岡山市中心部のいきもの図鑑

岡山市中心部エリア

西川緑道公園を軸に、周囲のビル緑地や公園が、水路や街路樹を通じて互いに繋がり、都心の生態系ネットワークを形成しています。



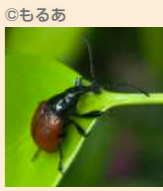
オンブバッタ



ニホンヤモリ

半田山エリア

コナラやアラカシを中心とした二次林から成る標高 100m 前後の丘陵地で、周囲には大学や植物園も位置する教育研究エリアです。



アシナガオトシブミ キタキチョウ

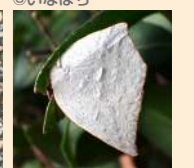


後楽園エリア

日本三名園の1つで、広大な庭園には170種以上の暖地性樹木が生育しており、旭川の親水空間とともに水と緑が共存するエリアです。



カジカガエル



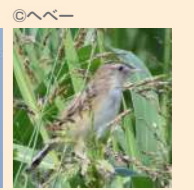
ウラギンシジミ

旭川・百間川エリア

旭川の放水路として築造された百間川とともに、瀬淵・礫河原・ワンド・水際草原・河畔林など多様な地形を見ることができます。



シロタニガワカゲロウ セッカ



クロガネモチ

岡山市の市木で、冬につける赤い実が美しく、公園、庭先、道路沿いにもよく植えられます。

©NOICHAN

おかやまの希少ないきものたち

岡山県では、開発、管理放棄(里山の荒廃)、水質汚濁、外来種などによって1700種以上の動植物が絶滅の危機に瀕しています。今回の調査では、塩性湿地に依存するアッケシソウや石灰岩地域に特有なシロヤマブキ、河川・水路ではタナゴ等の魚類が確認されました。

※各種のカテゴリーについては、岡山県版レッドリスト2025を参照しています。

絶滅危惧Ⅱ類

©A. osakana



チワラスポ

絶滅危惧Ⅰ類



コウノトリ コウノトリ目 コウノトリ科

©たいようSUN

水田やため池に、集団で飛来し、小魚やカエルを食べます。圃場整備、河川改修、耕作放棄により数を減らしています。

準絶滅危惧



タゴガエル 無尾目 アカガエル科

©tak20250813

山地の溪流に生息し、伐採による乾燥化、林道整備や砂防ダム建設といった環境変化により数を減らしています。

絶滅危惧Ⅰ類



アッケシソウ ナデシコ目 ヒユ科

©光子

葉が目立たず茎だけのような姿で、サンゴさながら赤く紅葉します。塩分を多く含む限られた湿地にしか生育しません。